

## 令和4年産水稻育苗における留意点

★基本技術(温度管理等)を励行して健苗育成に努めましょう!

### 1. 浸種は十分に行いましょう

- 発芽を均一にするために浸種を十分に行い、休眠(※)の打破をさせましょう。  
※休眠とは種籾を一定温度以下に保管する事で出芽しない状態の事です。浸種をすると休眠打破し、発芽します。
- 浸種期間の積算温度(日平均気温×日数)は100℃を確保して下さい。  
なお、比較的休眠が深い「コシヒカリ」や「あゆみもち」はやや長く120℃を確保して下さい。

### 2. 浸種温度は10℃以上を確保して下さい

- 浸種時の温度は10～15℃(13℃前後)が適温です。  
特に浸種初期に10℃未満の低水温にあうと発芽率が低下する場合があります。  
また15℃以上では催芽や出芽が不揃いになる場合があります。
- 浸種期間は、7～10日程度が適しており、低水温で長い日数浸種するとかえって発芽率は低下します。
- 水温は外気の変化にあまり影響されないの、午前中に計測した水温を基準に計算すると良いでしょう。  
また、できるだけ屋内で浸種を行うようにして下さい。屋外の場合は水温が下がりすぎないようにフタをする等の対応をして下さい(フタは閉め切らない)。  
また、水道水などで10℃より低い場合は、水温が10～15℃になる様調整してください。
- 浸種する水は地下水か水道水等を使用しましょう。(菌が少ない水を使用)  
また、菌が繁殖しないよう3日～4日で水を交換するようにしましょう。

(計算例 コシヒカリの場合)

日数(日)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
水温(℃)	13	12	11	13	11	12	14	12	13	12	11
積算温度(℃)	13	25	36	49	60	72	86	98	111	123	134

浸種不足は出芽のトラブルの原因になる事が多いので、しっかり行きましょう!

〈催芽・出芽〉育苗機の温度計やサーモスタットの不良によりトラブルが発生する事が多いので、育苗機は事前に点検しましょう。

〔催芽の温度は 32℃ × 24時間〕  
〔出芽の温度は 32℃ × 48時間〕  
です。48時間を過ぎて出芽しない場合はJAに相談下さい。

### ★温湯消毒法における留意点

- 湯の温度60℃と殺菌時間10分を厳守する。(湯温が高かったり殺菌時間が長かったりすると発芽率が低下します。また、湯温が低かったり殺菌時間が短かったりすると防除効果が低下します。)
- 温湯殺菌後、速やかに清水で冷却しましょう。(10℃以下の水温で冷却しない。)
- 温湯消毒後は速やかに浸種を行いましょう。

### ★みえのゆめBSLがデビューします

- 「みえのゆめ」にごま葉枯病抵抗性を付与した「みえのゆめBSL」が令和4年産より一般栽培が開始されます。ごま葉枯病の抵抗性は認められているものの、従来のみえのゆめと同じく、「モミガードCドライブロアブル」を使用した浸漬消毒法を必ず実施しましょう。

### ★ばか苗病対策

#### エコホープDJ

##### 【推奨使用方法】

- ・温湯消毒冷却後に1回使用(200倍液で24時間浸漬処理)
- ・催芽前の使用を推奨します。
- ・処理時の浴比:容量比1:1以上(種籾4kgに薬液8ℓ)

##### 【混用・体系処理不可剤】

- ベンレート水和剤・ダコレート水和剤等
- ※ベンレート水和剤・ダコレート水和剤は緑化期の使用は可。

##### 【使用上の注意点】

- ・薬液温度:10℃以下、30℃以上は避けて下さい。
- ・反復使用しないで下さい。
- ・薬剤は放置せず、24時間以内に使用して下さい。
- ・処理籾は保存しないで下さい(速やかに浸漬処理)。
- ・発芽率の低下した種籾(古い・保存状態の悪い種籾等)は発芽不良や生育障害を起こしやすいので使用は避けて下さい。

育苗作業は各段階でのチェックが必要です。催芽状況の確認を確実に行きましょう。

# 令和3年産は食味ランキングA評価… 令和4年産は 特A評価を奪還しよう!!

一般財団法人「日本穀物検定協会」の令和3年産食味ランキングで、伊賀米コシヒカリについては「A評価」となりました。

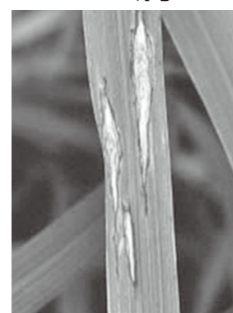
同協会によると、「米の食味ランキング」は、全国規模の品種を対象に昭和46年から実施しており、審査員が白飯を試食し、味や香り、粘りなどで総合評価をします。本年度は全国から152産地品種の出品があり、42銘柄が「特A」の評価を受けました。

伊賀地域では、平成8年に行政・生産者・JA等による伊賀米振興協議会を設立し、土壌改良材適正散布やライスグレイドー網目1.85mm以上、栽培管理記録の提出など、「伊賀米定義」の基準を定め、品質向上に努めてきました。今後、伊賀米振興協議会を中心とした伊賀米の品質安定・向上の為、栽培管理技術の普及を皆様と一緒に取り組み、食味ランキング「特A」を奪還しましょう。



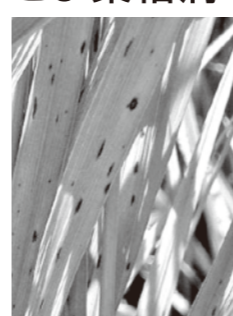
## 令和3年産で多く発生した病害と防除について

### ◆いもち病



- 特徴**
  - ・温度25～28℃で多雨年に多い。
  - ・砂質土壌で発生しやすい。
  - ・水口や過繁茂部、置き苗の周囲で発生が多い。
- 対策**
  - ・箱施用剤や本田剤など予防防除を心掛ける。(特に前年度発生圃場は予防防除を必ず行う)
  - ・置き苗は必ず除去する。
  - ・発生が多い場合は、ブラシン粉剤DLで早めの防除を行う。

### ◆ごま葉枯病



- 特徴**
  - ・地力の低い圃場(砂質圃場)で発生しやすい。
  - ・老化した株で発生しやすい。
  - ・品種特性上、みえのゆめでの発生が多い。(みえのゆめBSLは抵抗性あり)
- 対策**
  - ・育苗段階から発生の恐れがある為、種子消毒剤を使用し、種子消毒をおこなう。(みえのゆめBSLでも使用必須!)
  - ・6月下旬を目途に本田防除を行う。
  - ・育苗は厚播きにししない(老化苗にししない)。
  - ・極端に葉色が薄い圃場は穂肥施用前のつなぎ肥を検討する。
  - ・堆肥、土壌改良材を投入し、地力を高める。